福井県衛生環境研究センター活動報告　概要

発表演題名	福井県内のマダニにおける SFTS（重症熱性血小板減少症候群）ウイルス検索
学会名	平成２８年度　日本獣医公衆衛生学会（中部地区）
発表者名	外川　佳奈　（保健衛生部）
開催場所	名古屋国際会議場
開催日時	平成２８年８月２８日（日）
発表内容	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）はダニ媒介性感染症で、2013 年に国内で初めて報告されて以来、2016 年 3 月末までに西日本を中心として 172 人の SFTS 患者が報告されている。また、2015 年には福井県に隣接する石川県や京都府で患者発生が報告されている。今回の調査で、福井県内のマダニの生息状況および SFTS ウイルス遺伝子の検索を行なったので、その概要を報告する。 2015 年 4 月から 11 月に、福井県嶺南地区の三方石観世音および野坂岳の計 2 地点で、フランネル法により植生上からマダニを採集し、成書を参考に分類同定した。採集された若虫および成虫は 1 個体 1 検体として SFTS ウイルス遺伝子の検索を実施した。マダニから抽出した RNA を用いて、S セグメントを標的としたリアルタイム RT-PCR により SFTS ウイルス遺伝子の検索を実施し、10 コピー/reaction 以上を陽性とした。 今回の調査で採取されたマダニ種は、チマダニ属のヤマアラシチマダニ成虫 1 個体、フタトゲチマダニ成虫 44 個体、キチマダニ成虫 9 個体、オオトゲチマダニ成虫 54 個体、ヒゲナガチマダニ成虫 35 個体およびキララマダニ属のタカサゴキララマダニ若虫 3 個体の 2 属 6 種の計 146 個体であった。中国ではフタトゲチマダニが、日本国内では少なくともフタトゲチマダニとタカサゴキララマダニが SFTS ウイルスを媒介すると報告されており、さらにこれら 2 種のマダニ以外からも SFTS ウイルス遺伝子が検出されている。県内でもフタトゲチマダニおよびタカサゴキララマダニが生息していることが示された。SFTS ウイルス遺伝子検査の結果は、146 検体全て陰性であった。しかし、2013 年度の調査では県内で採取されたフタトゲチマダニおよびキチマダニなど 5 種のマダニから SFTS ウイルス遺伝子が検出されている。これらのことから、県内のマダニの生息状況および SFTS ウイルス遺伝子の保有状況を明らかにすることは、感染予防および啓蒙の観点から重要と考えられ、今後も継続的な調査が必要と考えられる。